

無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス)の解消に向けて

男女がともに活躍できる社会へ



無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)とは

自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいいます。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます。

組織における人事管理、業務管理を行う立場にある方は、組織や組織の構成員(職員、社員)の家庭、ひいては社会全体に与える影響が大きいことから、性別による無意識の思い込みに気づき、これを解消していく必要性が特に高いと考えられます。

動画教材 登場人物紹介

株式会社アンコバ商事

田中家



実の父



田中 由沙さん

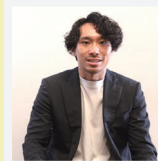
夫婦

子ども
(0歳)

子ども
(6歳)



田中 実さん



高橋 亮さん

夫婦

子ども
(0歳)



高橋 舞さん

高橋家



亮の母

広報部



加藤部長

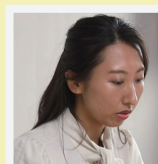
人事部



吉田課長



佐藤さん



鈴木さん

令和3年度

性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究

https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html

内閣府 男女共同参画局

<https://www.gender.go.jp/>

男女がともに活躍できる社会へ

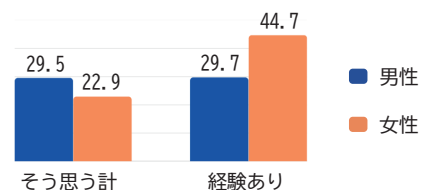


内閣府
男女共同
参画局



動画教材で取り上げたアンコンシャス・バイアスのテーマとポイント

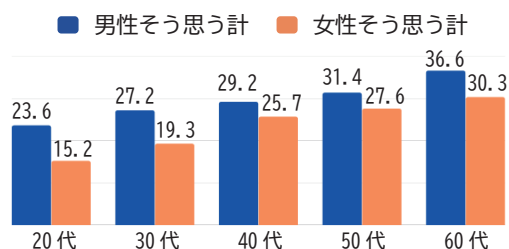
家事・育児は女性がすべきだ



体験談 自分が直接言われたわけではないが、「やっぱり子どもが熱を出したらお母さんが看病するよねー」という発言がサラッと会話に出てきた。悪気があって言っているわけでも、男性への不満ということでもなく、それが普通という感じだった。

ポイント 女性の半数近くが「女性がすべきだ」という思い込みを決めつけられた経験がある。配偶者・パートナーから言われることが多い。

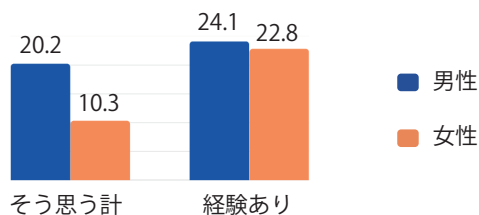
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ



体験談 育児休暇や育児のために休暇を申請したら、妻の父親に「男はそんなもの取らない」的なことを言われた。男性の部下が育児休暇を取る際、その上司から「男性が休暇を取る必要性を理解できない」と文句を言われた。

ポイント 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」は、結婚・出産適齢期の20～30代でも男女間に意識の差がみられる。

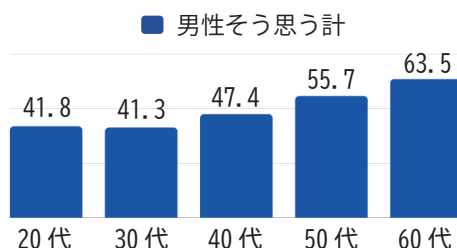
男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ



体験談 「男性だから仕事は遅くまで残って頑張りなさい」と上司から言われた。上司から「休日出勤やサービス残業は男なら当たり前だ」と言われたことがある。

ポイント そう思う男性は、女性の2倍

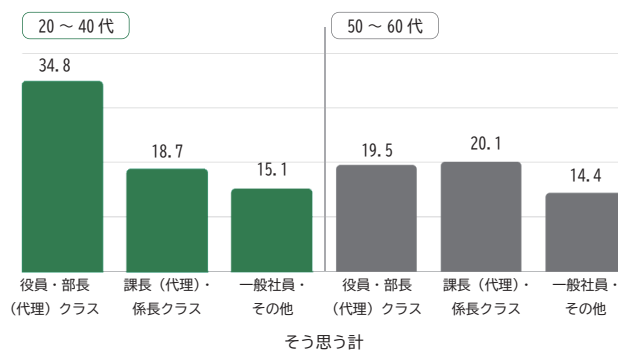
男性は仕事をして家計を支えるべきだ



体験談 上司から「男はいくら稼いでいるかで価値が変わる」と言われた。

ポイント 男性は年齢が高いほど、「男性は家計を支えるべきだ」と思う傾向があるが、若年男性も4割ほどがそう思っている。

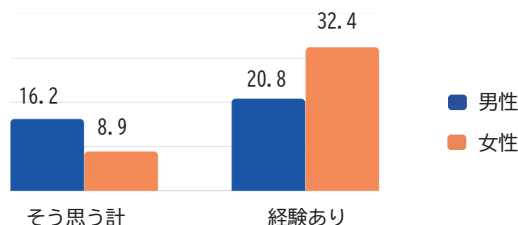
仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い



体験談 職場で、「子供の習い事の発表会に父親(男性職員)が行くため、仕事を休むのは違うのではないかと、母親が行けばよいのではないかと」という話を聞いた。

ポイント 評価者である役職者の方が、一般社員よりもそう思っている割合が高い。

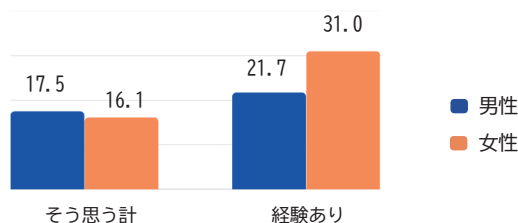
実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ



体験談 親の介護で退職願を提出したときに、「介護は女性の配偶者に任せるべきだ」と指摘された。

ポイント 3割以上の女性が、「女性がするべきだ」という思い込みを決めつけられた経験がある。そのように言うのは「男性の親戚」が多い。

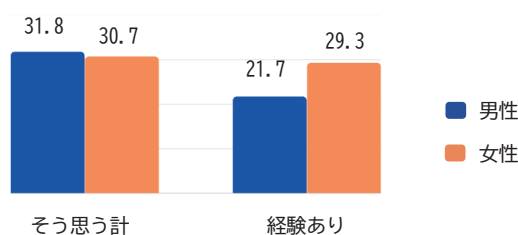
事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ



体験談 職場では来客があると、お茶出しや手土産を配るとき、当然のように女性に頼む。「男なんだから会社での雑務はしなくて良い。そういうのは女性社員に任せれば良い」と職場の上司に言われた。

ポイント 3割以上の女性が、簡単な仕事は女性がするべきだという思い込みを決めつけられた経験がある。女性は「男性の職場の上司」から言われることが多く、男性は「父親」から言われてきた割合が高い。

育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない



体験談 産休に入るとき、「女性だから子育てを優先してね」と女性の上司に言われた。復帰しにくい雰囲気を感じた。

ポイント 担当すべきでない、3割以上の女性自身がそう思っている。